

2024年10月中旬刊行予定

# 日本人の条件 東アジア的専制主義批判

## 大杉重男 著

A5判・上製／536頁／定価4,500円＋税

ISBN978-4-908568-45-9 C0095 ¥4500E

これは「入門書」でも「専門書」でもない。

「門」を破壊する「破門」の書である。

憲法九条、「歴史認識」論争をめぐる日本語のエクリチュールと和辻哲郎、夏目漱石、谷崎潤一郎、徳田秋声、福本和夫、中野重治、保田与重郎、大西巨人、三島由紀夫、中上健次、大江健三郎、山田美妙らのテキストの転覆的読解を試み、「東アジア的専制主義」批判から「東アジア同時革命」へ向かう「最後の文芸評論家」による「最新」の「時間錯誤」的日本＝文芸批評。

### 大杉重男（おおすぎ・しげお）

1965年生まれ。文芸評論家。1993年、『『あらくれ』論』にて第36回群像新人賞評論部門受賞。2001年、「重力」編集会議に参加し、翌年、鎌田哲哉、市川真人、井土紀州、可能涼介、西部忠、松本圭二と雑誌『重力』を創刊。著書に『小説家の起源—徳田秋声論』（講談社、2000年）、『アンチ漱石—個有名批判』（講談社、2004年）。

「私がここで素描を試みたいのは、日本人が「主体性」あるいは「主権」を持つべきなのか、持たないことによってどのように「人間」あるいは「動物」から隔たっているのか、持つとすればそれはどのようなものでなければならないか、そうした問いを、専ら文学を中心とした近現代の日本の文化言語表象の分析を通して検証することである。これは「日本人」の条件を問うことであると同時に「日本国」「日本語」「日本文学」の条件を問うことでもある。」（序章「日本人工学三原則」としての憲法九条」より）



装幀＝清岡秀哉

### 内容構成

- 序章「日本人工学三原則」としての憲法九条
- 第1部 東アジア的専制主義批判
- 第1章 ただ一つの、自分のものでしかない歴史
- 第1章付論 古賀忠昭「金愛花日記」論
- 第2章 文字存在論—天皇制のグラマトロジー
- 第2章付論 安里ミゲル「憲法十二条」論
- 第2部 日本人の条件—友愛・大逆・主権
- 第3章 フリーライダーとしての夏目漱石
- 第4章 谷崎潤一郎と天皇制
- 第5章 徳田秋声のダンス・ステップ
- 第6章 福本和夫とマルクスのロボットたち
- 第7章 中野重治の「性—道徳」
- 第8章 保田与重郎の合言葉
- 第9章 大西巨人における「スノビズム」の問題
- 第10章 「文化防衛論」と「人質」の論理
- 第11章 中上健次の「友」と「敵」
- 第12章 永劫回帰する「十二歳」の神話
- 第13章 山田美妙の不可能性の中心
- 第14章 「本当の事」を言った獣—大江健三郎における「主権」の問題
- 第14章補論 日本の真の滅亡のために
- 終章 東アジア同時革命についての走り書き的覚書

▶ご注文はツバメ出版流通まで

**FAX 03-3721-1922**TEL 03-6715-6121 E-mail [info@tsubamebook.com](mailto:info@tsubamebook.com) <http://tsubamebook.com>

貴店名（番線印）

**書肆子午線 新刊**[info@shoshi-shigosen.co.jp](mailto:info@shoshi-shigosen.co.jp)

返品条件注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通：川人

ご注文数

**日本人の条件 東アジア的専制主義批判**

ISBN978-4-908568-45-9 C0095

A5判・上製／536頁／定価＝本体4,500円＋税

ご担当

様

冊